

今後も通話地域の拡大を引き続き強力に進めて参ります。  
(情報政策室)

問 若者定着化(特に女性)のため誘致企業の推進を図ってほしい。

答 企業誘致については、松江松下仁多工場、小林コーポレーションの空き工場については、町が取得し企業の協力を得て雇用の拡大を図りました。

また、仁多産業の新工場設立、東洋製鉄も間もなく第三工場が竣工の運びとなります。

一方、農業部門においても国営開発横田一団地では、今春、高糖度トマトの生産施設が稼動し大きな雇用拡大が図られました。

なお、阿井地区にあります中林アルバムの空き工場についても企業の誘致に向けて折衝中であり、経済の活性化と雇用の確保に積極的に努めることといたしております。  
(地域振興課)

〔馬木地区〕

問 馬木小学校、馬木幼稚園、



保育所の駐車場は狭く、学校行事等ある場合、一部路上駐車などあり交通安全上も問題があり、町営の駐車場の整備を要望いたします。

答 以前から要望をいただいておりますが、本来幼稚園・保育所の整備に併せ用地取得すれば三割程度の負担で取得できましたが、現在では、補助又は過疎債事業の採択も難しいと考えますが、候補地がありましたら前向きに対応いたします。  
(総務課)

問 馬木中学校廃校以来、老朽化も激しく危険な建造物となってきました。解体と有効な跡地利用を要望いたします。

答 中学校校舎の除去につきましては、多大な費用を要するうえに、新町での全額負担となりますので、跡地利用と併せ取り壊しが必要と考えております。  
(企画財政課)

問 将来、一層の高齢化社会を向かえる事が予想される中、当地区をみた場合、将来無医地区になる可能性がありますので、診療体制確保についての検討を要望いたします。

答 現在、馬木地区におきましては、高橋先生に大変なご尽力をいただき、地域医療が確保されております。ご指摘の個人医院の医師の高齢化や医師不足は喫緊の課題であり、開業医、診療所の医療体制の整備は、奥出雲町過疎地域自立促進計画や新町まちづくり計画にも位置づけており、奥出雲町医師確保奨励条例を定

め、安心して医療サービスが受けられる地域医療の体制づくりに努めたいと考えております。  
(健康福祉課)

〔フリーターキング・要約〕

問(八川) 資源ごみ(プラスチック類)が収集してもらえなかったがどういふことか。

答 収集業者には、すべて持ち帰るように指示してありますが、もし収集されていない場合は町民課へ連絡下さい。

なお、資源ごみの分別方法については、ケーブルテレビで具体的に説明をいたします。

問(八川) 電気製品などの不法投棄が数多く見受けられ自治会で処理した場合、リサイクル料がかかるが町の対応は。

答 投棄物の処理については、町民課で対応し、連絡があれば現場を確認します。リサイクル料については、ご報告いただければ町で負担します。また未然に不法投棄を防ぐ

ため、今後もパトロール活動を強化します。

問(馬木) 通院の際に、車椅子から自動車に乗せるのが大変であるので、専用の自動車を準備してもらえないか。

答 通院のため車椅子の必要な方については、町の福祉車両がありますので、健康福祉課へご相談下さい。  
また、タクシートの利用券等で移送サービスも行っておりますのでご利用下さい。

今回頂いた貴重なご意見、ご要望については、現状等を確認し、最大限要望に沿うよう努力していきたいと考えています。

今後は、同一会場で開催し、新町の一体感の醸成を図り、積極的な事業展開をして参ります。

登山者の安全を祈る

吾妻山で山開き安全祈願

国定公園「吾妻山」の山開き安全祈願祭が六月九日、山麓の第二駐車場において行われました。

祈願祭には、若槻教育長、地元関係者、山頂をはさみ交流のある庄原市比和町からの来賓など約七十人が出席し、シーズン中の安全を祈願しました。

吾妻山は、多くの登山者や小学校の教育キャンプなど今年も多くの登山客、観光客で賑わいます。麓にある「つりぼり吾妻山」も幅広い世代の方が楽しむことができ、注目の観光スポットとなりました。



神事の様子

## 町立奥出雲病院に堀江昭好医師が着任

7月1日付けで、町立奥出雲病院小児科へ堀江昭好医師に着任頂きました。

堀江医師には、小児科での診察はもとより、子供の検診や健康管理などにご尽力頂きます。



【主な略歴】

- ・ 島根医科大学卒業
- ・ 公立雲南総合病院勤務
- ・ 島根大学医学部勤務

## 社会を明るくする運動 青少年非行防止メッセージ伝達式

7月は「社会を明るくする運動」の強調月間、青少年非行防止に取り組む全国強調月間です。

7月2日、役場仁多庁舎で吉原雲南警察署長、雲南保護司会仁多理事の若槻俊彦さんから岩田町長へそれぞれメッセージが伝達されました。

今年は「防ごう犯罪と非行 助けよう立ち直り」を統一標語に「地域の青少年は地域で守り、地域で育てる」という観点から、幅広く地域に根ざした運動が展開されます。



夢や希望を持ってお互いに支え合い、安全で安心して暮らせる明るい社会づくりに努めましょう。

## 真剣勝負 山里会20周年 中国支部シニアかるた大会



大会の様子

百人一首の会「山里会」の結成二十周年を記念した「平成十九年度中国支部シニアかるた大会」が(社)全日本かるた協会中国支部の主催で六月七日、三井野原の交流館「三國」で開催され、町内外から選手四十八名が参加して行われました。

開会式には、岩田町長、全日本かるた協会の西川恭治中国支部長、島根県かるた協会の兼子哲彦会長らが出席し祝辞を述べました。

山里会は、昭和六十二年に設立され、現在会員は十九名、町内の主婦の方が中心で結成以来かかさず毎週木曜日に定例会を行い、楽しみながら練習に励んでいます。

また、ジュニア会員も多く世代を越えた交流も活発に行われています。

開会にあたり山里会の藤原郁子会長は、「かるたは日本古来の伝統文化に触れ、集中力、記憶力、瞬発力を磨き、生きる力を与えてくれる競技です。これからもかるた大会が盛んになるよう互いに協力していきましよう」と挨拶がありました。

参加者は、六つのグループに分かれて、一回戦から三回戦まで戦い、読み手が札を読み始めると取り札が飛ぶほどの素早い手さばきで、会場は熱気とはりつめた空気に包まれていました。